

特集 「たけはらファン」

はじめました。

Vol.4

第4回目となる今回は、竹原市出身の映画監督で、竹原を中心にオール広島ロケで制作した映画『吟ずる者たち』が2022年全国公開予定である油谷誠至さんにお話を伺いました。

●映画作りへのこだわり

私は生まれてから高校卒業までを竹原で過ごしました。小さい頃から映画が好きで、高校時代にはよく広島や呉の映画館によく通っていました。当時から俳優やタレントではなく、監督という職業に興味を持っていて、京都の大学を途中でやめた後、東京に出て映画の世界に入りました。

業界に入った当初はテレビドラマの撮影が多く、当時2時間ドラマの全盛の頃で全国各地を撮影で回りました。地方ロケの良いところは、その

地方の風俗、特色を取り込むことでドラマがより膨らみ、人間味をより深く描けることです。だから地方での作品作りには拘りがあります。

今回の映画『吟ずる者たち』も地方ロケものです。それも私の郷里・広島での撮影ということが入りました。竹原でも多くのシーンを撮影しています。照蓮寺や旧森川家住宅、旧松阪家住宅、高崎町の洞門上の旧国道などが映画に登場します。竹原市民の皆さんには、撮影に温かく協力していただき、本当に感謝しています。

映画を作るといことは大変な作業ですが、今後チャンスがあれば撮り続けていきたいと思っています。家族や親子、男と女、些細なことから起る日常の出来事、そういうものを題材に人間ドラマを描けていけたらいいなあと、思っています。

●継承していきたい竹原の絶景と歴史

竹原には魅力ある場所がたくさんあると思います。今回の撮影のロケ地にも選びましたが、高崎町の洞門上の旧国道からの瀬戸内の眺めは絶景だと思っています。エデンの海展望台からの景色も最高です。四季折々の照蓮寺や西方寺・普明閣の情景、瀬戸内の海。すべてが竹原の誇りです。

また、竹原は古い町で歴史の町でもあります。私は昭和30〜40年代に町中の本川地区で育ちましたが、塩田が埋め立てられ、町が変わっていく姿も見てきました。小学生の時には、総理大臣になられた池田勇人さんのお国入りの時に、小旗を振ってお迎えした記憶もあります。町中の各小路に小さなお好み焼き屋さんがあって、子供の頃にはそれぞれ自慢をし合っていたことも懐かしいです。こういう竹原の昔の風情を今の子供たちにも伝え、そしてこれからの竹原に誇りをもって築いていく子供たちが育つことを、切に期待したいですね。



あぶらたに せいじ 油谷 誠至さん プロフィール

竹原市出身。昭和29年生まれ。中央幼稚園(現こども園)、竹原小学校、竹原中学校、竹原高等学校卒業。

大学中退後に映像の世界に入り、火曜サスペンス劇場などテレビドラマの制作を中心に活躍。平成25年に『飛べ!ダコタ』で初となる映画監督を務める。2作目であり、オール広島ロケで制作された『吟ずる者たち』が2022年全国公開予定。



▲『吟ずる者たち』の撮影の様子。竹原でも多くのシーンを撮影した。



▲先行上映では、主演の比嘉愛未さん、中村俊介さんと舞台挨拶を行った。